



上富総企第 68 号
平成19年4月25日

国土交通省道路局長 様

北海道上富良野町長 尾 岸 孝 雄



中期的な計画の策定にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり意見を提出いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

(総務課 企画財政班)

中期的な計画の策定にあたっての意見

意見者：北海道上富良野町長 尾 岸 孝 雄

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

(1) ネットワークの戦略的整備・活用

市町村が点在する北海道においては、地域の中心となる市町に多くの生活機能が集約され、圏域での相互補完により住民生活が成り立っている地域が少なくないと考えられる。

特に医療においては、地域の中心となる市町への集約化は著しく、救急だけでなく日常の自家用車・路線バスなどによる通院圏は益々拡大する傾向にあると考えられる。

全国的に人口減少の進む時代になった事からも、このような傾向は一層進む事から、効率的に短時間で安全に移動できる道路網の計画的な整備は今後一層重要な政策になると考えられる。

(2) 防災・減災

既存の一般国道については、地形に応じて路線が置かれており、必ずしも災害に強い状況とはいえないと考えられる。

道路施設自体の耐震性等の確保はもちろんであるが、津波・洪水・火山泥流や火砕流などルート自体が被災の恐れのある場合もあり、避難や救援物資の搬入など一般国道以外に被災の可能性の少ない複数のルートが確保されている事が必要であり、高速道路や高規格道路なども含め多様な交通網の整備が災害に強い地域を創ると考えられる。

(3) 観光振興の支援

高度経済成長期・バブル期を経て、日本の社会は発展・成長から緩やかな安定的社会へと変化しており、これまでの「より早く・より安全に」人と物を運ぶという機能に加え、「癒し」や「ゆとり」の機能も道路に求められるようになってきていると考えられる。

雄大な自然と美しい景観を有する北海道においては、これまでの景勝地・観光地といった点の観光から、移動そのものが美しい景観を体験することができる線の観光への転換が必要であり、北海道内の移動の多くを占める乗用車やバスなどの車窓からの景色が観光価値を一層高めるよう「視点場」としての道路整備を進めることにより、地域の観光価値を向上し、地域住民の参加による地域づくりや活性化が図られると考えられる。

(4) 安心・安全な冬季交通

雪道の交通安全対策等については、年々向上が図られているところであるが、冬季間の通行止めや、スリップ事故などの現状から、いまだ十分とは言えない状況であり、今後も一層の安全対策の向上が望まれる。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

(1) 道路・橋梁等の長寿命化

現在も道路施設等について延命化のための調査や修繕など行われているが、急速な道路網の整備が高度成長期を中心になされた事から、多くの道路・施設が一斉に修繕・改修を求められる状況にあり、これらの延命が効率化にとってもっとも重視されるべき事であるが、現在改修が必要な施設に対する対処療法的なものに加え、修繕を遅らせる予防的な対応法を行い、計画的な改修を進めることで、将来を見据えた効率化が図られると考えられる。

(2) 既存道路・施設の拡充（活用）

1において、新たな道路網や高規格道路などの充実を求めたところであるが、これらの整備には莫大な予算と時間を要し、時代に即応した対応とならない場合もあることから、上記の整備とともに既存の国道の片側二車線化や交通安全の観点からの線形改良・関連施設の充実により既存の道路・施設の整備が図られると考えられる。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

○地域に密着した維持・管理体制の維持

現在、地域ごとに維持管理事務所が設置され、地域自治体や住民に密着した道路整備や管理について相互理解を深めながら道路行政等について進めているところであるが、これらの体制の縮小が進むと地方の自治体や住民にとって生活に直結する国道などの諸課題への迅速な対応や、維持管理への弊害が危惧されるところであり、現行体制の維持を望む。